

第28回V・ファーレン長崎支援会

2012V・ファーレン長崎 サポーターズカンファレンス

- 日時： 2012年12月19日(水) 19:00~21:00
- 会場： 長崎市 市民会館第3・4会議室
- 来場者数： 57人
- 司会： 藤原 裕久 氏 (V・ファーレン長崎支援会運営委員長/Team V-ist 代表)

■V・ファーレン長崎出席者：

代表取締役社長 宮田 伴之
専務取締役 菊次 勉 (強化部)
常務取締役 岩本 文昭 (営業部)
運営部長 溝口 透馬
ホームタウン推進部部长 小林 龍也
総務部部长 駕屋 一幸
後援会事務局長 山内 克彦
以下 加藤、渡辺、原田、竹村、後藤、木貞、松竹
(順不同 敬称略)

■V・ファーレン長崎選手会出席者： 松橋章太、中山悟志、有光亮太、古部健太 (順不同 敬称略)

藤原 裕久氏 (以下藤原)：

では、第28回V・ファーレン長崎支援会として、「2012V・ファーレン長崎サポーターズカンファレンス」を開催します。皆さんから頂いた質問ですが、時間の都合上、全てに回答を頂くのは難しいと思いますので、優先度の高い質問を中心に進行致します。本日、回答出来なかった質問に関しては後日、必ずクラブから回答頂き公開致します。

今日のサポーターズカンファレンスは、不満をぶつけるといった類の物ではなく、スタッフ、選手、サポーターがお互いの考えや意見を知ろうと言う物です。回答が支離滅裂であっても、それが今の姿です。それぞれの主張や意見を知って、聞いた人が何を信じて、何を支持するかを選択する事が大事だと思います。それでは、今日の司会運営をさせていただきます。支援会運営委員長の藤原です。よろしくお願ひします。続いて、スタッフ、選手の紹介をさせていただきます。

(参加スタッフ、選手紹介)

藤原：

それではサポーターズカンファレンス開催したいと思います。まず、最初の質問となります。

「監督を解任した理由が報道を見ても理解出来ません。説明をお願いします。監督を解任したという事は佐野監督のサッカースタイルから転換するという事でしょうか？だとしたら、どういう経緯でそういった方針になったのでしょうか？」

宮田 伴之（以下：宮田）：

監督解任について、このような混乱となった事について不手際があったと反省をしている所でございます。まず解任に至るまでの経過について簡単に説明させていただきます。シーズンが終了翌日の11月19日の夜、佐野監督に、来年度は契約を更新しない事を通知致しました。佐野監督からは「選手達にもっと早く労いの言葉をかけて欲しかった」と言われましたが、それ以外については了解しましたと言う事でございました。この時点で、翌20日に選手達に解任について伝えて、21～22日に佐野監督同席しての記者会見という準備をしておりました。この時点では解任については三役（宮田・菊次・岩本）と監督の4人以外知らない情報がメディアに漏れ、混乱を生む事になってしまいました。この混乱の中、同席しての会見も出来なくなりました。我々の情報管理の甘さに尽きると思っております。

契約を更新しない理由ですが、今シーズン20勝5敗7分で2位に勝点差9をつけ、プレッシャーの中で優勝を勝ち取った訳でございますが、2位のAC長野の終盤の息切れがあったのではないかと考えました。我々は今年、JFL史上最高の収入を持って戦いました。2位のAC長野より多額の資金を賭けて戦った訳でございますが、2・3位との直接対決ではそれぞれ1分1敗。サッカーの内容も今シーズンは水泳、中山にロングパスを合せるシーンも多く、パスをつなぐ攻撃サッカーというのは1年目ほど強く出ず、特に引いて守る相手に苦戦したという事もあります。それらを踏まえて、佐野監督のJリーグでの指導実績が1年という事も考えた時に、来シーズンは新監督でという結論になりました。

藤原：

質問の中にあつたサッカースタイルを転換するという事で良いのでしょうか？という事についてはどうでしょうか？

宮田：

良い部分は継承しつつ、新しい息吹を入れて新しいスタイルにしていくべきと判断しました。

藤原：

続いて強化方針について「監督や選手の退団を決めたのは誰で、監督が決っていない中でどういう基準で選手の契約更改を行っているのですか？この状態で来年低迷した場合、誰が責任を負うのですか？」という事ですが？

宮田：

現状、佐野監督に3年お任せして、2年目以降は強化部長を兼務させていたという実態があります。誰が監督の査定は行うのかという点で、それには大きな問題点があると思いました。その中で、今回、強化担当の菊次の意見をきいた上で検討しました。監督と契約を更新しないことも含めて覚悟があつた事は理解していただきたいと思えます。私も中途半端に銀行を辞めて来た訳ではありません。将来のV・ファーレン長崎を見据えて長崎の為にどうすれば良いのか、考えて決めた事でございます。もし失敗すれば全責任は私が負うべきと思えます。

藤原：

続いて「5年でJ1とシーズン中言っていたのがシーズン後に3年でJ1となった。現実を甘く見ているのではないかと。まずはJ2定着、長崎にVファーレン定着が先に思いますが、J1に3年で上がる為の具体的に取り組んでいる事があれば簡単でいいので教えてほしいです。」という質問がきています。

宮田：

今シーズンから導入されたクラブライセンス制度にスタジアムの項目があります。現在、J2の中にはこのスタジアム項目がクリア出来ずにJ1にチャレンジ出来ないクラブもあります。スタジアムについては我々の努力だけで解決出来る物ではなく、対応に苦慮しているチームもあります。その中で我々はスタジアムがJ1規格です。私が社長に就任する前は競技場については大きな問題でした。しかし、競技場の問題がクリアされた今、逆に強みになっております。

我々は自分達の努力次第でJ1にチャレンジが出来ます。その中で甘いと言われても、10年、5年を3年でやりますと言って駄目ですか？我々は夢を売る商売だと思っております。この1年、夢を売る我々が失望感とか情けない話とか・・・選手達にも迷惑をかけました。それは私の不徳の致す所です。でも、今まで懸念されたハード面がクリアされている訳ですから、チャレンジして県民、スポンサー、企業、株主の皆様にアピールしたいと考えました。

藤原：

質問の中でJ1に3年で上がる為に具体的に取り組んでいる事は？という質問がありますが？

宮田

順位目標は来シーズン12位、2年目が6以内、3年目に2位以内で、良い選手を獲得し現有選手のモチベーションを上げて行く為にも資金を確保していく事が重要だと思っております。現時点では来年へ5億ちょっとの予算しか組んでおりません。営業は、これまで殆ど常務の岩本が1人でやってきたのですが、来年は営業を増員し、運営、営業にJ経験者の招聘を諮っております。面接の中で私が痛感しているのが我々はアマチュアであったと言う事です。でも、それは逆に言えば改善の余地が大幅にあると言う事でもあります。そういった事をやっていきたいと思っております。

藤原：

次にクラブの対応についての質問が来ています。「1度目の昇格断念の際、選手はテレビで昇格断念を知ったそうです。2010年の大量解雇の際もそうですが、選手やスタッフの気持ちを考えない対応が多いと思います。また、佐野監督の一連の処遇について失礼は？失礼の有無に関わらず、盛り上がりにも水を差したとは思えないか？」という事ですが？

宮田：

1点目の1度目の昇格断念の件については私がクラブに入る前だったのですが・・・

菊次勉（以下：菊次）：

1度目の昇格断念ですが、小嶺社長の時です。昇格断念が決ってから、どういうスケジュールで説明するかという事で予定を組みましたが、情報管理が甘く先に報道が出てしまいました。選手にはグラウンドで説明をしたんですが、その時には既にメディアに出ていたという状況です。選手や関係者を大事にしていかなければならないと思っておりますが、稚拙であったとお詫び申し上げます。去って行く選手、スタッフに何か出来ればと思いながら、手をこまねいておると言うのが現在でございます。こういうお答えしか出来ませんが、何とか今後とも誠意を持って対処していきたいと思っております。

藤原：

1度目の昇格断念の際の説明なんですが、情報漏洩とかではなく、選手はテレビで小嶺社長がクラブのセッティングした記者会見をやっているのを見て知っているんですが。今の専務の説明と食い違うと思うんですけど。

菊次

私の認識では、記者会見の前にグラウンドで説明したと記憶していますが。

宮田

どちらにしても、そんな事があってはいけない事ですので、今後はしっかりやっていきます。プロとしてやっていきます。それから、佐野監督の一連の処遇は冒頭で説明した通り、出来るだけ非礼のないよう対応は行いましたが、ムードに水を差したと言う事については、私含めて甘さがあったと思います。そういった部分の強化もはかっていきます。

藤原：

判りました。では続いて「監督解任後の社長と選手会の話し合いが平行線だったと新聞に書かれてましたが、その後どうなったのでしょうか？」という件について質問がきております。

宮田：

選手会が監督解任後にフロントに詰め寄ったというような報道もありましたが、これは正式に選手会から申し出があって、私が対応しました。その為に選手が反抗したかのような見方もあったんですけど、それは違いますと説明を各所にさせて頂いております。本来は強化部が対応すべき所を私が直接やってしまった点は軽はずみであったと思います。いずれにしてもこういった点は猛反省の中、2度と言われないような体制作りをしたいと考えております。

藤原：

次は「シーズンパス購入者への特典が試合開始の2時間前入場だけなのか？満席になる事もなさそうでお得感がない。どこも一般入場者が2時間前で、シーズンパスは2時間30分前に入場できる。グッズ販売が会場外であり、入場時間から売り始めるので先行入場しないで買わないといけない。そうなると先行入場の意味が分からない。」という事ですが。

溝口透馬（以下：溝口）：

運営部の溝口です。この件は私が回答させていただきます。現在、シーズンパスの販売もやっているんですけど、入場時間については現在、色々な意見もいただいておりますので、これから検討させていただきたいと思っております。

藤原：

「来期の運営どうされるんですか？開場1時間前でも設営が出来ていない。売店も準備が出来ていない。メインスタンドに犬を連れて来ていた人もいた。ペットボトルの蓋は外させるがビン・缶の持ち込みは多い。」という質問も来ています。

溝口：

Jリーグも視察して、今年夏から社内に運営部会を作って来年の打ち合わせをしております。来年からはJの運営経験がある方も来ますので、一緒に改善を進めていきたいと思っております。宜しくお願いいたします。

藤原：

スタジアムの駐車場についてですが、「駐車場は、駐車券保有者以外の一般の方では何台とれるのか？付近に駐車場はあるのですか？駐車場確保数によっては駐車場無しにした方がよいのかもしれませんが。シャトルバスも駅からだけでは不便ですし、パーク&ライドが出来るようにして欲しいです。収容できない場合の対応は考えているのか？」との事です。

溝口：

駐車場が今 1 番頭の痛い問題です。今の所使える駐車場の台数が最大で 1200 台。1 台あたり 4 人では 5,000 人しかカバー出来ません。スタジアムのキャパが 2 万人ですので、最大 15,000 人の方に支障が出る。何とか出来ないかと検討中です。開幕戦については公園内の他のグラウンドが使えないかお願いしています。重要な試合でも対応が出来ないかと話しています。一方で公共の交通機関での来場者を増やす取り組みも必要だと思います。諫早駅から競技場まで徒歩 25 分ですので、その動線をどうするかという事もありますし、パークアンドライドも出来るよう関係各所と調整中です。

藤原：

それからサポーター団体からも選手入場時の場内放送設備を使った応援について質問がきております。

「我々ウルトラ長崎はこのクラブ創設時から、選手入場時にチャントを歌い選手を鼓舞してきた。それが今年の途中から、DJ が試合開始直前に個人的に考えた応援を個人の判断で、場内放送設備を使って行い始めた。スタジアムを盛り上げようとしてやった事とは理解しているが、協議をした結果であればわかるが、DJ が個人的に考えた応援を個人の判断のみでそれも場内放送設備を使って行う事を、クラブ側はどのように考えているかを聞かせて頂きたい。」との事です。

溝口：

DJ の方もクラブ創設時から、レンタルでは 30 万程度かかる音響設備を自前で持ち込んで協力してくれた方です。一方でサポーターもずっと応援されている事を充分理解しています。皆、志は同じなのに上手くコミュニケーションを取らせる事が出来なかったのはチームの責任だと思います。1 度、顔と顔を合せて話し合う機会を作っていきたくと思います。

サポーター団体ウルトラナガサキ（以下：UN）：

これに関しては、我々も 1 度、DJ の方に話に行ったんですが、話し合いは要らないという対応でした。こちらは話し合いをと思っていましたので・・・そこは理解をしておいて下さい。場内設備を使って DJ とは言え、個人が応援をして良いのなら、私達も競技場の音響設備を使って良いのかとなりますので、その辺を話し合わなきゃなんじゃと思う訳です。

溝口：

（話し合いを）出来るだけ早く・・・出来るなら年内にやりたいと思います。

藤原：

続いて「諫早では電光掲示板が通常のホーム側に設置されている。スタジアム横の芝生広場を色々な事に利用出来る事等も考えると、メインスタンドから見て右をホーム側、左をアウェイ側にしては？」との事ですが。

溝口：

今度のスタジアムは駐車場がアウェイ側入場口に近いし、電光掲示板もみやすい。チームとしても是非、皆さんの意見を聞きたいと思っています。カンファレンスの後でも良いので是非、皆さん意見を聞かせて欲しいと思います。

藤原：

では、「V・VAREN 長崎は、ファンの方々が今現在、クラブに対して何を求めているとお考えでしょうか？具体的にお答え下さい。複数回答の場合：そのファンの要求で、クラブが最優先で対応すべきと考える事案はなんですか？ それに対しどのような対応を行っていますか、また行っていきますか？」との質問も来ていますか？

宮田：

ご依頼とか要請については、真摯に受け止めていかなければならないと思っております。来シーズンについてはフロントスタッフに J リーグを経験したスタッフを招聘しております。色々なノウハウを取り入れながらサポーターの皆様の要望に応えていかなければならないと思っておりますので、現状では、こういった希望があって、それにどう応えていくかというのは説明出来ませんが、次回、こういった機会があれば新しいスタッフを交えて説明出来ればと考えております。

菊次：

私が支援会に毎月参加して感じているのは、ファンが求めているのは 1 番目が「勝つ事」、2 番目は「サポーターやファンと選手のふれあいの場を作る事」という風に思っています。イベント等で選手派遣については少ないとか対応が良くないとか意見を受けておりますが、チームとしてはなるべく選手に出て行って貰うという所は一生懸命やっている所です。チームの事情等で中々希望通りいかない所も多々ありますが、選手が出る方針で今後は対応していきたいと思っております。

藤原：

社長から次の機会という事で言及がありましたが、それについて、「今回は支援会を通して 2012 年を振り返るサポーターカンファレンスで、2013 年についてのサポーターズカンファレンスは新体制がきまってから開催する方針と聞いています。必ず年明けにやることを約束していただきたい。」という意見が来ています。

宮田：

フロントだけで構わないという事であれば、行いますが、監督参加の場合、スケジュールの都合もありますので監督参加の確約は出来ませんが、クラブとしては要請があれば行きます。

藤原：

「何故こないだから募集している株主は総会で発言権無いのに、サポーターミーティングは単なるサポーターに発言権があるのか。総会とミーティングの違いは？」とサポーターズカンファレンスに類する質問がもう一つ来ています。

宮田：

サポーターズカンファレンスについてはチームや運営の話になると思います。現在募集の持ち株会は持株会の会員になってもらうという事で株主になる事ではありません。持株会については長崎商工会の上田会頭に理事長になっていただいて、その理事長に発言権を持っていただくという形になります。1 口 5 万円で会員という位置付けでございます。要望は支援会やサポーターズカンファレンスで聞く事も出来ます。そういった場で行っていききたいと思います。

藤原：

クラブが約束した事項についての質問が来ています。「これまで、ファン感謝 DAY に関してもサポーターカンファレンスの内容を公式 HP にあげますと言っても、約束を守らない事ばかりでした。今年はやると話したことに關してはやってください。やむ終えない事情で出来ない場合は出来ない事を公式の場で伝えてください。」という意見ですが？

宮田：

こういった事例があったという事は聞いております。それについては私の指導不足に尽きるんですが、J に上がってこういう事を繰り返さない為にしっかりした体制を作っていきます。こういった事のないように指導していきます。

藤原：

サポーター団体から「現在、V・ファーレン長崎のサポーター団体は、我々ウルトラナガサキのみである。現状のままでは、新しいサポーター団体が生まれにくい。去年も提案したが、サポーター団体を増やして行く為に優遇措置を設け、その代わり団体は登録制にして、クラブ側の呼びかけにおいて協議会などには参加義務を課す、などをしてサポーター団体が増えるような仕組みを導入してはどうだろうか。」という意見もありますが。

溝口：

検討させていただきます。以前は、ウルトラナガサキと別の応援スタイルがあって良いと思っていたんですが、現在はウルトラナガサキを支援するようにするのも大事なかもしれない・等と考えています。団体が増えた時にどう統制を取るのかという問題はありますが、登録製については、新団体が出てきてから検討して良いんじゃないかなとも思っています。

UN：

色々な団体があった方が楽しいと思って、団体が増えやすいようにと提案しています。自分達とすれば、本当は他団体が出た時に不公平にならないようにとか言う必要はない訳ですし、今回の件は前回のサポーターズカンファレンスとあわせて2回目の提案ですから今回でこの提案は最後にしたいと思います。

藤原：

続いて経営関連にうつります。「今シーズンの有料入場者数と来期の目標・今シーズンの有料入場者は平均何人だったのでしょうか？来期の目標は？」という質問です。

宮田：

今季の有料観客動員については1試合平均 2559 人になります。今季のチケット収入の目標額は 5000 万で、今季 3500 万を超えました。昨季は770万でした。来シーズンについてはチケット収入で 1 億円以上を目指しています。今日現在、シーズンチケットについては 800 万を売り上げており、シーズンチケットの目標は 2000 万です。

藤原：

経営について「支援持株会に入ろうと思っているのですが、ホームページのどこにもB/SとP/Lの開示がありません。資本参加を求めているのに、会社側の決算を開示しない理由は何でしょうか？」という別の質問も来ています。

宮田：

特段の理由はありません。11月までに7000万の増資を完了したんですが、その際は株主に決算書をお持ちして説明しております。Jリーグでは経営情報の開示必須なので今後は行って行きます。11月の増資で約2000万の資産超過となりました。今後はシーズンパス、持株会、後援会キャンペーン、それから寄付金募金や過去ユニフォームの販売もやっていきたいと思います。決算書については具体的に知りたければ開示も行います。

藤原：

では地域密着関連の質問に移りますが、選手の派遣について、「ホームイベントへの選手派遣に非常に後ろ向きな対応を見聞きします。これに対してクラブはどのように考えているのでしょうか？また後ろ向きと受け取られるのは何故とお考えですか？特にスタジアムでスタッフがサポーターを選手から遠ざけようとしているように感じます。」との意見です。

小林龍也（以下：小林）：

クラブも選手も後ろ向きという意識はありませんでした。ただ、そのような対応があった事はお詫びしたいと思います。何故、後ろ向きと取られるのかという事なんですけれど、サポーターから選手を遠ざけようとしたとか・・・が考えられるのかなと思います。スタジアムでの対応ですけど、そのような捉え方をさせてしまった私達の責任だと思います。状況によっては安全管理上、厳しく言う場合もありますが、ホスピタリティは改善をしていかなければならないと思います。

藤原：

同様の内容なんですけど、昨年、イベントで選手を呼んだ際に選手が関係者に挨拶どころか車の中から一切出てこなかった。関係者に挨拶くらいするのは最低限の礼儀ではないでしょうか？」という意見も来ていますが？

小林：

昨年、指摘された為、今年はそういう事がないように対応致しました。今年はそういう事は無かったと思います。

藤原：

少し難しい質問も来ています。「地域密着」とは何ですか？「サッカー文化」とは何ですか？借り物の言葉じゃなく具体的にどういう状態が「サッカー文化」でどういう状態が「地域密着」がお答え下さい。又、その地域密着やサッカー文化の考えに照らして今の V・ファーレンはどの程度の達成度ですか？達成度が低いならそれはなぜですか？どうやってこれからそれを高めますか？」

宮田：

地域密着は数をこなすものではなく心を通わせるのが大事であると思っています。特に大切に思うのは子供達の将来を見据えた行動と言動です。それが豊かな長崎に繋がると思います。残念な回等になっているかもですが、こう考えて来シーズンの方針を決めております。なので、来シーズンも変わらなければ私の責任問題になるかと思っています。

菊次：

地域密着度から言うと、我々がどれ位の観客を集められるかどうか、後援会、持株会の数が指標になるかと思っています。将来的にはプロにアカデミーから何人上がるかも指標になるかと思っています。サッカー文化に関して言えば、人間が作った物全て文化ですので、サッカーが作った物と言うと、サッカーが築いたもの・・・長崎らしい物となると・・・今の時点ではサッカー文化をまだ創れてないと思っています。

藤原：

それではイベント関連の質問に移ります。「退団選手とお別れセレモニー的なものもないのは残念です。他チームはやっているのになぜしないのですか？」

宮田：

他チームはどうやっているのでしょうか？

一般：

ホーム最終戦の時などに契約満了の選手も一緒に並んで挨拶するなどやっています。最後のお別れの場です。

宮田：

佐野からも退団の時にそういった事をしたかったと言われました。選手についてもそういうケースがあると知らなかった。そこを含めて今後改善していきたい。

藤原：

もう一つ、イベント関連の質問です。「支援会で「今年はファン感デーを開催する」「スケジュールにも入っている」と発言があったが開催されなかったのはなぜか？なぜ行わないのか？」という質問が来ています。

菊次：

今シーズンの事ですか？今シーズンはシーズン頭に行いましたが。

一般：

昨年のサポーターズカンファレンスでも宮田社長が発言しています。また、支援会でも菊次専務が年頭のイベント以外にもシーズン中に予定していると発言しています。あとファン感をやらない理由が「選手が出てこない」って選手のせいになっています。選手に確認をすると選手には支援会とかの提案も伝わっていないでスタッフの所で止められている。ファン感をやらない理由を選手のせいにはしているのは違うと思います。

宮田：

申し訳ありません。そういった事があったのであればお詫びします。真摯に受け止めて改善していきます。

藤原：

情報発信関連で「公式ホームページが見にくい上に使い難い。リンクも切れていたり、スマホで見るとデザインが狂っていたりします。リニューアルは検討していますか？情報発信を真剣に考えてください。」という質問が来ています。

溝口：

予算の関係もあって大幅なリニューアルは出来ないのですが、改善したいと思います。問題点についても運営会社に改善を求めます。個人の方が無料で請け負ってくれるという申し出もあるんですけど、それだと中々、要望を出す等が出来ない面があります。現在は会社同士でやりとりが出来るので改善もちゃんと申し入れていきたいと思います。

藤原：

情報発信については他にも「応援している人に対しての情報発信が少ない。情報発信の充実は必須ではないですか？」「情報発信がとにかく遅いし下手だと思います。内容もサポーターが知りたい事じゃないのが殆どです。サポーターの事をもっと理解して下さい。」という意見が来ています。

宮田：

今年 1 年間、ご迷惑をおかけしました。この部分については新しい体制の中では強化する所に位置づけております。広報についても現在、Jリーグチーム経験者を招聘しております。皆様のご要望に応えられるようにしていきます。

藤原：

「シーズンパスにしろ、持株会にしろ、後援会特別キャンペーンにしろ説明が不十分。金さえ貰えれば良いという雰囲気を感じられます。」という意見も来ていますが？

宮田：

申し訳ございません。そのような認識はございません。そう見える事は反省しております。将来のビジョンを掲げて話していくべきだったかと思えます。皆様の期待に応えたい一心であった事だけのご理解下さい。

藤原：

では、時間が来ましたのでそろそろ終了したいと思います。いただいた質問については全てクラブに提出し、回答をいただきます。また、今日の議事録も出来るだけ早く作成し、クラブ、選手会に内容確認の上で公開します。これらの質問を実際に目の前で聞いてどう判断するかは参加者皆さんに委ねます。

松橋章太：

皆さんのお話を聞いて選手全員来年もしっかりやっていかなければならないと思いました。クラブが3年でJ1という事もあるので目標達成に頑張りたいと思います。これからもV・ファーレン長崎をよろしく願います。

宮田：

本当に今日はありがとうございました。まともな回答が出来たかは判りませんが真摯に話をさせていただきました。この1年間本当にご支援いただいて感謝申し上げますと共に、我々の不手際のお詫びを申し上げます。来年の更なるご支援をよろしく願います。本日はどうもありがとうございました。

藤原：

では、第28回V・ファーレン長崎支援会、2012 サポーターズカンファレンスを終了させていただきます。本当にありがとうございました。